

3 研究のまとめ

(1) 成果

本研究の提案する方法を用いて育成すべき資質・能力を向上させる学習活動を設定した後、その学習活動の中で主体的・対話的で深い学びをどのような形で実現した方がより効果が高いかを検討し、業展開案シートの教師の働き掛けの部分を充実させていきました。その際、幅広いニーズに応えるために、教師の働き掛けを、教師のスキルやこれまでの実践に合わせて初級、中級、上級と分けることで、段階的な手立てとして提案することができました。この方法を用いた実践事例では、昨年度同様、どの実践においても、事後アンケートから生徒の意識の変容が見られワークシートの記述の質も高まりました。

また、昨年度の課題でもあった生徒の育成したい資質・能力の変容を、全国学力・学習状況調査を活用した事前・事後テストを実施することで検証を試みましたが、実施した両校とも数値が大きく向上しており、育成したい資質・能力の面についても向上していると考えられます。

これらのことから、本研究における授業の質的改善についての方法は、資質・能力の育成に有効に働いたと考えます。

(2) 課題

探究の過程の課題の解決における活動について、本研究が有効に働くかどうかについて検証を試みましたが、具体的な手立てを絞り切ることができなかつたために、意識調査の結果においても変容を見取することはできませんでした。今後、この段階での活動における手立てや検証方法を検討していく必要があると考えられます。

また、重点的に取り組んだ項目については資質・能力の向上が見られましたが、相対的に他の探究の過程に掛ける時間が減ったため、その他の項目における生徒の意識が低くなってしまいました。学習活動については、生徒に実態に合わせながら、付けたい資質・能力を見極め、計画的に取り組んでいかなければならないと考えます。

(3) 終わりに

本研究委員会は、伊万里市立伊万里中学校、佐賀市立成章中学校において公開授業研究会を開催し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の質的改善の考え方を基にした授業を公開しました。両校には、公開授業研究会の場を提供していただいたことに感謝申し上げます。また、授業を参観された先生方には、貴重な御意見、御感想を頂きました。本当にありがとうございました。先生方から頂いた御意見、御感想は、今後の研究に生かして参ります。

研究スタッフ一同、本研究が、先生方の一助になればと考えております。そして、児童の学びに還元していただければこれに勝る喜びはありません。